

(国語科)

**読んだこと、聞いたことを理解し
自分の思いや考えを進んで表現する子どもを育てる
～子どもたちがともに学び合う学習の場の工夫を通して～**

大阪市立茨田東小学校 研究部

1. 主題設定の理由

本校では学校教育目標を「人間性豊かな児童の育成」と設定し、「考える子」「協力する子」「たくましい子」をめざす子ども像として、全教職員が一致協力して実践を積み重ねてきている。

一昨年度より、国語科の授業を通して、「読んだこと 聞いたことを理解し 自分の思いや考えをすすんで表現する」という研究主題を設定し、実践・研究を進めてきた。

学習指導要領 国語科では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。

「伝え合う」ためには、まず、読んだことを理解する力、そして相手の考えを正確に聞く力、そしてそれらに対して、自分の考えを相手にわかるように適切に表現する力が必要である。そのために、学習の場の工夫として、ペア学習や、グループ学習などを取り入れてきた。

そして、子どもたちがグループの中で互いに聴き合い、対話を重ねる豊かな言語活動を通して一人一人の気づいたことをすり合わせ、つなぎ、多様な考えに触れることで、思考を深めていけるように支援してきた。

その中で次のような課題が明らかになってきた。

- ① 学び合いにおける教師の在り方「つなぐ」「もどす」
- ② 「共有の課題」と「ジャンプの課題」の設定
- ③ グループ学習を効果的に取り入れることのできる教材や学習場面の工夫

以上のような課題をふまえ、本年度は物語教材を通して研究主題に迫る実践研究を進めていくことにした。

2. 研究の視点と内容

(1) 学びのグループ学習を効果的に取り入れることのできる教材や学習場面の工夫

- ・ 言語活動の基本となる国語科においてグループ学習を取り入れ、本文から「読んだこと」、友だちの意見や考えを聴き、「聞いたこと」をもとに自分の考えを深めることができる学習場面の工夫

本文を拡大し、印刷したワークシートを用意し、めあてやねらいに合わせて、子どもたちにサイドラインを引かせ、つぶやきを書き込ませる。書き込んだことをペアやグループで聴き合い、そのあとで全体で交流するという流れで取り組んだ。

(2) 「共有の課題」「ジャンプの課題」の課題設定についての研究

- ・ 共有の課題 学習課題を迫及する上で、必要な主発問
- ・ ジャンプの課題 質の高い学びに挑戦させるための発問

教材や単元の本質をふまえ、子どもの実態や授業の流れ（子どもの思考の流れ）に合った課題や発問を工夫することが学びの大切な要素となると考える。

(3) 協同学習についての研修の充実

〈学びの共同体の学習について〉

- ・ 「学びの共同体」スーパーバイザー 丹松 美代志先生、岡 格先生、深草 充生先生に来ていただき、指導を受ける。

3. 研究のまとめ

(1) 研究の成果

〈学びの協同学習について〉

- ・ ペアや4人グループでの学習活動を授業に位置付けることによって、学びから外れてしまいがちな子どもが友だちと関わり合いながら、学びに戻ることができるようになってきた。
- ・ ペア・グループ→全体 と話し合いを広げることによって、自分の考えを伝えるにくい子どももグループの中では伝えることができるようになってきた。
- ・ 自分の意見を聴いてもらえるという安心感の中で、話したい、という意欲を高めることができた。また他の子どもの意見に耳をかたむけるようになり、お互いの意見や考えを聴き合う中で、一人一人の感じ方の違いに気づくことができ、読みを深めることができた。
- ・ 本文を見渡せるワークシートや、本文を拡大し、書き込みできる冊子を使うことで子どもが書き込みをしやすいように教材を工夫してきた。大切な言葉に着目して、サイドラインを引いたり、書き込みをすることでテキストを根拠に物語を読み深めることができてきた。
- ・ 「共有の課題」「ジャンプの課題」の2段階に設定することで思考に深まりを持たせ多様な考えを引き出すことができた。
- ・ グループ学習による読み取りを進める中で、自分の意見を持ちながら、楽しんで物語文を読む子どもが増えてきた。また、聴き合う子どもたちの姿から、子どもたちの新たな一面をたくさん発見できた。

〈協同学習についての研修の充実〉

- ・ 「授業から何を学べたか」を中心とし、「子どもたちがどこで学びに入れたか」「どこから学びから外れたか」という子どもたちの「学びの事実」から授業を見るという視点に立って話し合うことにより、授業者からではなく、子どもの様子から授業を考えることができた。

(2) 今後の課題

- ・ 子ども同士を「つなぐ」、指導者と子どもを「つなぐ」、子どもとテキストを「つなぐ」、そして、全体の交流の場で子どもの集中を切らしてしまわないように子どもたちを学びに「もどす」ための音読の取り入れ方の研究
- ・ 「共有の課題」「ジャンプの課題」の課題設定についての研究
- ・ 協同学習「学び合い」についての教師の居方についての研究、共通理解
- ・ 発達段階に応じた学び合いの場の設定
- ・ 教材研究の充実
- ・ 国語科だけにとどまらず、「学び」の協同学習を他教科領域でも積極的な導入